

原 司郎教授 略年譜

氏 名 原 司 郎
生年月日 昭和 3 年10月 8 日

【学 歴】

昭和27年 3 月 東京大学 経済学部経済学科（旧制）卒業
昭和28年 4 月 東京大学大学院（旧制）入学
昭和30年 3 月 東京大学大学院 修了
昭和44年12月 北海道大学 経済学博士

【職 歴】

昭和29年 4 月 神奈川大学 経済学部 専任講師 就任
昭和33年 4 月 神奈川大学 経済学部 助教授 就任
昭和38年 4 月 神奈川大学 経済学部 教授 就任
昭和38年10月 西ドイツ・フランクフルト大学留学（昭和39年 3 月まで）
昭和40年10月 西ドイツ・フンボルト財団経費生としてフランクフルト
大学 再度留学（昭和41年 9 月まで）
昭和46年12月 横浜市立大学 商学部 教授 就任
昭和46年12月 神奈川大学 経済学部 非常勤講師 就任（現在に至る）
昭和50年 4 月 創価大学大学院 経済学研究科前期課程 非常勤講師
就任（昭和59年 3 月まで）
昭和52年 4 月 創価大学大学院 経済学研究科後期課程 非常勤講師
就任（平成元年 3 月まで）

昭和60年 4 月	横浜市立大学 評議員 就任
昭和61年 4 月	横浜市立大学 商学部長 並びに同大学大学院 経済学研究科長・経営学研究科長 就任（平成2年3月まで）
昭和62年 8 月	横浜市立大学 学長職務代理者（昭和62年9月3日まで）
昭和63年11月	横浜市立大学 学長職務代理者（昭和63年12月2日まで）
平成4年 3 月	横浜市立大学 教授を辞する
平成4年 4 月	横浜市立大学 名誉教授となり今日に至る
平成4年 4 月	高千穂商科大学 教授となり今日に至る

【学会および社会における活動】

（学会活動）

昭和30年	金融学会会員 昭和47年より昭和55年まで理事，昭和57年より常務理事（現在に至る）
昭和59年	生活経済学会会員 昭和59年設立より副会長
昭和59年	証券経済学会会員
	理論経済学会会員
平成5年	生活経済学会会長となり今日に至る

（社会活動）

昭和48年12月	資金運用審議会 専門委員となる（総理大臣の諮問機関）
昭和57年 1 月	郵政審議会委員 保険・年金部会長となり今日に至る（郵政大臣の諮問機関）
昭和60年	金融制度調査会 専門委員（昭和61年まで）。同調査会金融制度第一委員長（昭和62年より平成2年まで）。同調査会 金融制度専門委員長代理となる（大蔵大臣の諮問機関）
昭和60年	金融問題研究会 委員となり今日に至る（大蔵省銀行局

	長の諮問機関)
平成元年 5 月	住宅宅地問題審議会 委員となり今日に至る（建設大臣の諮問機関)
平成元年	簡易保険調査研究会 座長となり今日に至る（郵政省簡易保険局長の諮問機関)
平成元年	不動産の証券化委員会 委員長となり今日に至る（建設省都市改革局長の諮問機関)
平成 3 年	農協制度研究会 委員となり今日に至る（農林水産省経済局長の私的諮問機関)
平成 3 年 7 月	文部省学位授与機構 運営委員となり今日に至る（文部大臣の諮問機関)
平成 4 年	金融制度調査会委員となり今日に至る
平成 5 年	資金運用審議会委員となり今日に至る

業績目録

【著 書】

書 名	発行年月	発 行 所
1) 近代貨幣信用論	S 32. 1	学精社 (謄写印刷)
2) 金融理論の基礎視点	S 32. 9	学精社 (謄写印刷)
3) 金融概論 (共著)	S 33. 8	青林書院
4) 日本経済論 (共著)	S 33. 9	高文社
5) 日本の金融構造	S 33. 12	春秋社
6) イギリスの金融 (共著)	S 33. 12	日本評論社
7) イギリスの金融制度 (共著)	S 34. 12	日本評論社
8) 新経済学演習講座 金融論 (共著)	S 35. 7	青林書院
9) 横浜市史 第三卷上 (共著)	S 36. 3	横浜市
10) 日本経済の成長と構造 (共著)	S 36. 6	酒井書店
11) 経済成長と財政金融 (鈴木武雄 先生還暦記念論集, 共著)	S 37. 10	至誠堂
12) 日本産業の成長と経営革新 (共著)	S 37. 11	白桃書房
13) 現代長期金融構造の性格	S 38. 3	中央書房
14) 横浜市史 第三卷下 (共著)	S 38. 3	横浜市
15) 明治前期金融史	S 40. 5	東洋経済新報社
16) 現代日本の金融構造	S 41. 12	新評論
17) 日本の金融機構	S 43. 11	金融財政事情研究会
18) 新版 金融論 (共著)	S 44. 5	弘文堂
19) 西ドイツの金融構造	S 46. 6	地方銀行協会
20) 日本の銀行—金融機能と経営問	S 47. 2	東栄堂

題の解明－

- | | | |
|---|----------|------------------------------|
| 21) 昭和財政史－終戦から講和まで－
第12巻 金融 (1) (共著) | S 51. 5 | 大蔵省財政史室編
東洋経済新報社発行 |
| 22) 現代金融論 | S 51. 10 | 日本経済評論社 |
| 23) ネーダー・グループシティバンク
(共著) | S 53. 5 | 日本経済評論社 |
| 24) 昭和財政史－終戦から講和まで－
第14巻 金融 (3) (共著) | S 54. 5 | 大蔵省財政史室編
東洋経済新報社発行 |
| 25) 金融機関論 | S 54. 11 | ビジネス教育出版社 |
| 26) 論集現代の金融 金融システム
(共著) | S 55. 5 | 日本経済新聞社 |
| 27) テキストブック 金融論 (共著) | S 55. 11 | 有斐閣 |
| 28) 神奈川県史 通史編 6
近代・現代 3 (共著) | S 56. 3 | 神奈川県県民部 県史
編集室編
神奈川県発行 |
| 29) 神奈川県史 通史編 7
近代・現代 4 (共著) | S 57. 3 | 神奈川県県民部 県史
編集室編
神奈川県発行 |
| 30) 郵便貯金 (共著) | S 57. 3 | ぎょうせい |
| 31) 神奈川県史 各論編 2
産業経済 (共著) | S 58. 3 | 神奈川県県民部 県史
編集室編
神奈川県発行 |
| 32) 金融問題の知識 (共著) | S 58. 4 | 有斐閣 |
| 33) 21世紀へのチャレンジバンク
(共著) | H 1. 1 | 日本金融通信社 |
| 34) 地域金融と制度改革 | H 2. 8 | 東洋経済新報社 |

【学術論文】

論文名	発行年月	発表雑誌
1) 建設機械化の長期金融問題点	S 29. 2	「建設総合研究」
2) 信用の基礎的体系について(1)(2)	S 29. 11	「商経法論叢」 第5巻, 第1, 2号
3) 日本資本主義発達史における特殊 銀行の成立の意義(その1) ー日本勧業銀行の創立ー	S 30. 2	「商経法論叢」 第5巻, 第4号
4) 経済正常化の問題点	S 31. 1	「太平洋」
5) 日本金融の特質をどのように理 解するか	S 31. 5	「商経法論叢」 第7巻別冊
6) わが国金融政策の性格	S 31. 5	「商経法論叢」
7) 明治初期金融史における為替会 社の意義	S 31. 10	「金融学会報告」
8) 企業金融と金融市場 ーとくに建設業を中心としてー	S 32. 1	「建設総合研究」
9) 明治初期金融史への一考察 ー為替会社設立を中心としてー	S 32. 2	「銀行研究」 第55巻, 第2号
10) 明治初期金融における「為替会 社」の意義	S 32. 5	「金融学会報告」 第5集
11) わが国金融政策の性格	S 32. 5	「商経法論叢」 第8巻, 第1号
12) 金融政策のあり方と限界	S 32. 6	「金融経済」第44号
13) 第二国立銀行覚書	S 33. 6	「金融経済」第50号
14) 銀行券発行制度への一考察	S 33. 8	「金融界」
15) 銀行券発行制度への一考察	S 34. 1	「商経法論叢」

- | | | |
|----------------------|----------|-------------------|
| －財政金融一体化問題－ | | 第9巻, 第3号 |
| 16) 設備投資と景気変動 | S 34. 7 | 「社会科学の方法と諸問題」 |
| －金融理論への一つの接近－ | | |
| 17) 戦後循環把握における産業関連 | S 34. 9 | 「商経法論叢」 |
| 分析の意義(1)(2) | S 34. 12 | 第10巻, 第2号,
第4号 |
| 18) 明治中期における横浜第二国立 | S 35. 10 | 「商経法論叢」 |
| 銀行の性格 | | 第11巻, 第3号 |
| －とくに預金構造を中心として－ | | |
| 19) 明治中期における横浜第二国立 | S 35. 12 | 「金融経済」第65号 |
| 銀行の性格 | | |
| －とくに資金運用面を中心として－ | | |
| 20) 明治中期における第二国立銀行 | S 36. 6 | 「金融学会報告」 |
| の性格 | | 第13集 |
| 21) 経済成長と長期金融構造の変質 | S 36. 11 | 「バンキング」 |
| | | 第164号 |
| 22) 明治初期横浜金融史覚書 | S 37. 2 | 「商経法論叢」 |
| | | 第12巻, 第4号 |
| 23) 金融正常化期における長期金融構造 | S 37. 7 | 「商経法論叢」 |
| | | 第13巻, 第1号 |
| 24) 横浜正金銀行初期の特質 | S 38. 1 | 「商経法論叢」 |
| | | 第14巻, 第3号 |
| 25) 横浜正金銀行設立の意義 | S 38. 12 | 「戦後の思想と社会」 |
| 26) 信用の基礎的論体系(1) | S 39. 7 | 「商経法論叢」 |
| | | 第15巻, 第1号 |
| 27) 明治初期銀行の一類型 | S 39. 9 | 「商経法論叢」 |

		第15巻, 第2号
28) 信用の基礎的論体系(2)	S 39. 10	「商経法論叢」
		第15巻, 第3号
29) 西ドイツ公社債市場の問題点 —金融市場との関連中心として—	S 39. 11	「公社債月報」 昭和39年11月号
30) 西ドイツの抵当証券について	S 41. 10	「銀行研究」 昭和41年10月号
31) 抵当銀行法成立の歴史的意義	S 41. 12	「商経論叢」
32) 西ドイツ国際金融に関する若干 の資料	S 45. 3	「商経論叢」 第5巻, 第3, 4号
33) わが国金融制度の一考察	S 52. 5	「金融学会報告」 第43号
34) 資金運用部資金と金融市場	S 53. 9	「金融学会報告」 第46号
35) 政府系金融機関の位置づけ	S 55. 7	「金融ジャーナル」
36) 横浜市貿易の振興政策の一試論	S 56. 1	「経済と貿易」 第131号
37) 預貯金金利決定—文化論への疑問	S 56. 6	「金融ジャーナル」
38) アメリカの金融システム革新と 金融機関の対応	S 57. 4	「金融ジャーナル」
39) 長短金融分離の意義と今日的問 題点	S 57. 12	「金融ジャーナル」
40) 財政投融资を解剖する	S 58.1.31 S 58.2. 7 S 58.2.14 S 58.2.21	「金融財政事情」

S 58.2.28

- 41) 無担保貸出の増大と銀行貸出の基 58. 8 「金融ジャーナル」
本的課題
- 42) 財政投融资の現状と問題点 59. 7 「金融構造研究」
第 6 号
- 43) 抵当証券業務の現状と今後の課題 59. 7 「金融ジャーナル」
- 44) 長期金融機関の役割と今後の課題 59. 10 「金融ジャーナル」
- 45) 不可欠となった銀行の自己資本充実 60. 3 「金融ジャーナル」
- 46) 小口預貯金金利の早期自由化 61. 1 「金融ジャーナル」
- 47) 小口預貯金金利の自由化と郵便貯金 61. 9 「金融財政事情」
- 48) 西ヨーロッパにおける金融自由 61. 10 「金融ジャーナル」
化の新局面
- 49) 小口預貯金金利の自由化はいか 61. 12 「生活経済学会年報」
に進めるべきか 昭和61年度版
- 50) 金融制度改革の必然性と方向 63. 3 「金融ジャーナル」
- 51) 金融革新と金融システムの安定性 63. 7 「金融学会報告」
第66号
- 52) 金融自由化と共同組織金融機関 H 1. 5 「金融財政事情」
- 53) コミュニティバンクとは何か H 1. 6 「金融ジャーナル」
- 54) 地域活性化への課題と金融機関 H 1. 11 「金融ジャーナル」
の使命
- 55) 集中満期を迎える郵貯の何が問題か H 2. 3 「エコノミスト」
- 56) 日米の財政投融资制度の比較(1)(2) H 2. 6 「かんぽ資金」
- 57) 地域金融のあり方について H 2. 7 「地銀協月報」
- 58) 財政投融资—現状と展望(1)(3) H 2. 7, 9 「住宅金融公庫月報」
- 59) 住宅政策及び住宅金融の地域的課題 H 2. 9 「住宅問題研究」

- 第6巻, 第3号
- 60) 地域金融のあり方について H 2. 9 「信用金庫」
- 61) 定期預金の商品性はどうあるべきか H 3. 4 「リテールバンキング」
- 第12巻, 第4号
- 62) 高金利, 自由金利下の地域金融 H 3. 5 「経済詳報」
機関の経営課題 平成3年5月29日号
- 63) 新しい金融制度の改革と信用金 H 3. 8 「信用金庫」
庫の対応 第45巻, 第8号
- 64) 金融制度改革の方向とその問題点 H 3. 9 「金融ジャーナル」
第32巻, 第9号
- 65) 金融の産業の潤滑油としての役割 H 3. 10 「エコノミスト」
平成3年10月1日号
- 66) 今後の生命保険について H 3. 10 「保険展望」
平成3年10月号
- 67) 長期信用銀行法の改廃問題について H 3. 11 「財政金融ジャーナル」
- 68) 信用保証協会の将来のあり方 H 4. 「信用保証基本問題研
(共著) 究報告書」
- 69) 郵政事業と地域金融機関 H 4. 6 「金融ジャーナル」
平成4年6月号
- 70) 21世紀の民間金融と公的金融 H 4. 7 「金融経済研究」
(共著) 第3号
- 71) 金融システムの変化と住宅金融 H 4. 12 「住宅問題研究」
- 72) ディスクロージャーと金融機関経営 H 5. 2 「財政金融ジャーナル」
- 73) 金融制度改革を考える H 5. 3 「郵政研究所月報」
- 74) 新金融制度と地域金融機関 H 5. 8 「金融ジャーナル」
平成5年8月号
- 75) 米国S & Lの整理淘汰とわが国 H 5. 11 「財政金融ジャーナル」

中小金融機関の整理淘汰の現状

- | | | |
|----------------------------------|---------|---|
| 76) 地域金融の意義とその影響 | H 6 . 1 | 「生活経済学会シンポジウム報告書」 |
| 77) 金融自由化下の郵便貯金の経営
戦略と信用組合の対応 | H 6 . 2 | 「信用組合」 |
| 78) 財政投融资と公的金融仲介シ
テムの現状と長期的展望 | H 6 . 5 | 「現代経済社会にお
ける諸問題」第2巻
(大石泰彦先生古稀記
念論文集) |

【学会報告】

- | 報 告 名 | 発表年月 | 発表学会 |
|-------------------------------|----------|----------|
| 1) 明治初期金融史における為替会
社の意義 | S 32. 10 | 金融学会秋季大会 |
| 2) 明治中期における第二国立銀行
の性格 | S 35. 10 | 金融学会秋季大会 |
| 3) わが国金融制度の一考察 | S 50. 10 | 金融学会秋季大会 |
| 4) 資金運用部資金と金融市場 | S 52. 5 | 金融学会春季大会 |
| 5) 財政投融资と郵貯資金の自主運用 | S 61. 10 | 財政学会秋季大会 |
| 6) 小口預貯金金利の自由化 | S 61. 10 | 生活経済学会大会 |
| 7) 金融革新と金融システムの安定性 | S 62. 5 | 金融学会春季大会 |
| 8) 金融構造の変化と金融制度の改革 | H 1 . 10 | 金融学会秋季大会 |
| 9) 地域金融をめぐる制度改革 | H 2 . 10 | 金融学会秋季大会 |
| 10) 21世紀における公的金融と民間
金融のあり方 | H 3 . 6 | 金融学会春季大会 |
| 11) 公的金融システムと財政投融资 | H 6 . 1 | 金融学会関東部会 |